

◎体験学習

第13回喘息児童の夏期教室へ参加して

山田香須美

(岡山大学医学部附属病院三朝分院看護部)

はじめに

岡大附属三朝分院においては、喘息専門医の赴任以後、喘息患者及び喘息児童の外来患者と入院患者が増加しています。私達看護婦も2年前より喘息について、グループ学習を始め一昨年より喘息児童夏期教室に参加する様になりました。今年度は私が参加する機会を得、期間中児童と共に起居を共にした経験を報告します。

概 要

期 間 昭和60年7月29日～8月2日
場 所 岡山県真庭郡勝山町勝山妙円寺
対象者 小学3年生～中学2年生 26名
<スタッフ>

夏期教室長 大藤 真
副 “ 木村郁郎
指 導 教 師 5名
医 師 32名
看 護 婦 4名
指 導 助 手 7名
主 催 (財)日本アレルギー協会中国支部
後 援 岡山大学医学部第二内科学教室
医療法人水島第一病院
院長 滝沢千之助
医療法人勝山病院 院長 竹内義郎

感 想

7月29日から8月2日迄の5日間、喘息児童の夏期教室が勝山妙円寺で開催され、看護面の担当者として参加しました。

集まった児童は小学3年生から中学2年生迄の26名で、倉敷市、岡山市、真庭郡、倉吉市等いろいろな方面から来ていました。

喘息児童夏期教室は今年で13回目となり、す

に何回か参加したことのある児童は旧友に会うのを楽しみにしていたらしく話はずんでいました。参加児童の $\frac{2}{3}$ は初参加でしたが、自己紹介後はすぐ友達となり仲良しグループが出来るのに時間はかかりませんでした。

夏期教室の内容は、毎日朝6時起床、乾布まさらから始まり、喘息体操、寺掃除、歌唱による訓練、水泳による鍛練を繰り返し、午後は日変りで親睦会、小運動会、オリエンテーリング、飯ごう炊さん、キャンプファイヤーを行なって生活にリズムをつける様、工夫したプログラムが組まれていました。

喘息発作の誘因は心因的な事が多く、周囲の人々、特に家族から腫れ物にさわる様な態度で扱われ過保護で過ぎた児童が5日間親元から離れて生活するので保護から離れた不安により発作が起こるのではと思っていましたが、この心配は吹き飛んでしまいました。朝夕に行なわれる診察時に発作の起こりそうな児童は早目に吸入、内服等の予防処置が行われ、大発作を未然に防ぐことにより健康児と変らないということを知りました。

喘息児童は発作が起っている時以外は普通の子供と変わりなく伸び伸びと楽しみ仲間はずれになる児童は少なく、これが本当に喘息に悩む子供達かと思った位です。

最終日に児童達を書いた作文を読んで辛い事を書いたものはなく、楽しかった思い出が書かれていたことが私の気持ちを楽にしてくれました。

この教室に参加したことにより児童達は体力、精神力に自信をつけて一段と成長し家族が待つ家庭へ帰ったと思います。

私自身院内で不安な表情をした児童しか接していませんので喘息児童の日常生活の一部に触れることが出来るいい体験学習になりました。今後院内においてこの経験を生かしてゆけたらと思います。